

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171401300), 法人名 (有限会社ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホーム おもひで), 所在地 (函館市東山3丁目2-4), 自己評価作成日 (平成30年1月10日), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型のホームで、昔ながらの家庭の雰囲気があり、庭には燈籠や庭石があり、四季により様々な景色を楽しむことが出来る。庭に生える露を入居者様と一緒に採り、ご近所にお配りするなど、近隣の方との交流を持っている。町内会に属し、地域の行事に参加させて頂き、地域の方には、理解と協力が得られ、日ごろから大変よくして頂いている。また、隣に学童保育所があり、子供達とのふれあいや交流もあり入居者様には楽しんで頂いている。介護計画の実行内容を、毎日の業務日誌、個人記録に記録し、報告、確認し、プランの目標達成に取り組んでおり、入居者様に安心して毎日を過ごして頂けるよう、毎日の係わりを大事にケアさせて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0171401300-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は函館市北東部の五稜郭公園より車で10分程の閑静な住宅街に開設して14年目を迎える1ユニットのグループホームである。建物は木造平屋造りの純和風の民家を改修し、昔懐かしい欄間や障子・箱火鉢等を活用した和風のインテリアは無駄を省いてすっきりと纏まっていて、家庭的な温かさや重厚感を兼ね備え、感性を刺激する佇まいになっている。庭の大きな石燈籠や庭石・手入れの行き届いた植木等は玄関や居間・居室から見渡すことが出来、四季折々に変化する景色を楽しませてくれる。陽ざしが燦々と入る廊下に置かれたベンチは友達と一緒に、また、一人でゆったりと寛げる場所となっている。当事業所の特筆すべき点は個別ケアを大切にしている点である。写真撮影が趣味の利用者には希望に添って年数回撮影に同行したり、以前から中国鍼治療をしていた利用者には継続して通院出来る様に支援している。地域との関係も良好で、庭で採れたフキをご近所におすそ分けしている。昨年隣に開設した学童保育の子供達が事業所を訪れて和太鼓やけん玉の発表会をし盛んに交流している。七夕には多くの子供達が訪れ、元気のよい歌声に利用者は大喜びでお菓子を配っている。また、職員の子供が夏休みや学童保育終了後に「たたいま」と言って立ち寄り、ケアの面では家庭的な視点を大切に、毎日お風呂を沸かし、食事は利用者と一緒に相談して冷蔵庫の中の物を使って食べたい物を作り、お手伝いも得意を活かして行い、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、大きな家族として歩んでいる「グループホームおもひで」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、職員は理念に沿った個別の目標をかかげ意識して実践に繋げている。	入社時に基本理念の「その人の人格を尊重し、その人らしさを支える」とケア理念の「・・穏やかで楽しい暮らしを提供します」の主旨を十分説明し、また、全職員が具体的なケア目標を定めて実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事へ参加し交流させて頂いている。近隣の学童保育の子供たちの訪問や、回覧板、庭で採れた物を一緒に配ったり地域と関わって頂いている。	散歩中に出会う方と挨拶を交わしているうちに顔見知りの関係を築いている。東山祭りの時は地域の方が駐車場や見学場所を用意しており、地域に馴染んでいる。ハロウィンに学童保育の子供達が訪れ利用者は笑顔でお菓子を渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流時、認知症について聞かれたりし、また認知症の方を理解してもらえるよう交流を大事にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開き状況等ご報告し、参加者の方からアドバイス、意見を頂きサービスの向上に努めている。	年6回、家族や町内・包括支援センターの方々が出席して開催され、日常や行事の様子を映像で報告したり、ヒヤリハット・インシデントも報告し意見やアイデアを頂き透明性のある会議となっている。会議録は家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や包括支援センターへ会議議事録を直接お持ちし、相談にのって頂いたり、直接行くことで顔も覚えてもらい良い関係を築くよう努めている。	市の担当者や包括支援センターとは研修会や実施指導などで情報を交換し、運営会議議事録も直接手渡しして顔なじみの関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、落ち着かず危険な行動をする方もいるが、ご本人に合わせて行動し、職員間で話し合いケアの仕方を工夫し防止に努め、拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、主治医、かかりつけ医受診時に相談し対応している。	研修計画立てたり、制度改正や新制度になった時はその都度、勉強会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。メンタルの薬調整も職員間でケアの方法を話し合い医師と相談しながら、状態に応じて慎重に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し意識を高め、入居者様の細かな表情や精神的な変化を見逃さず、職員間で情報を共有し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた入居者様があり、今後もいつでも利用する方が入居できるよう、研修等の学びで理解を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はサービス内容等説明し、疑問点がないか確認し理解を得られるよう努めている。改定時も、文書で説明し了承を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に窓口、責任者、連絡先と共に、公的な第三者機関の相談窓口も明示し、日頃より気軽に言ってもらえるよう信頼関係の構築に努め、ご意見やご要望をお聞きしている。年に一度無記名でのアンケートも実施し、運営に反映させて頂いている。	利用者からは日常的な関わりの中で言葉や態度などから意向や要望を把握したり、推測したりしている。家族からは面会時や電話時に些細な事でも気軽に話せる様に雰囲気づくりに配慮し、表出した意見や要望は運営に反映させるよう努めている。	ホーム便りなどを送付する時に、利用者個人の写真や担当職員のコメントを添えて情報を伝え、気軽な関係作りを継続的に行う取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を話しやすい雰囲気作りに努め、会議等での職員の意見を管理者が代表者に伝えている。職員が直接意見を言う機会もあり、代表者は職員の個人面談も行っている。	代表者は年1回個人面談を実施し意見や要望を聴取し、必要に応じて管理者と話し合い迅速に対応している。管理者は申し送り時や会議だけではなく、随時職員の意見や要望に耳を傾け、全職員で話し合い運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員との個人面談を行っており、希望を取り入れるよう努力し、働く環境のより良い整備に努め、勤務状況を把握し職員を増員したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へは、研修案内の呼びかけをし、段階に応じた研修会に参加してもらっているが、職員不足で参加できないこともあったので、研修を受ける機会の確保に努めている。国家資格取得の為の応援にも努め、職員の中には働きながら介護福祉士合格者もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会、ブロック会議等で意見交換や交流を深めてもらっている。勉強会では、グループワークなどで日頃の悩みなど相談したりアドバイスをもらったりし、サービスの向上させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の来訪や面談などで話し合いの場を設け、ご本人様の困っていること、不安なことが解消されるよう努めている。利用していたサービス等からも情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に同席してもらい、困っていること不安なこと、要望等をお聞きし、不安が解消されるよう努め、ご家族様の思いを大事に信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い、利用していたサービスや医療機関からも情報収集し、今必要とされる支援を見極め検討し、サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを大切に、家事を一緒にして頂いたり、談笑や係わりの時間を大事に共に日常を過ごし、良い関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や受診にご一緒した際に、ご家族様との今までの係わりなどお聞きしたり、ご本人様にとって一番良いと思うことを共に考え、行事に参加して頂いたり、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方が来訪し、外出などされている。行きつけの美容室に行かれる方もおり、かかりつけ医の受診送迎などなじみの関係が途切れない支援に努めている。	おしゃれすることを大切に考え、行きつけの美容院を継続的に利用する支援をしている。親戚や友人が来訪した時は思い出話をして寛いでいる。箱火鉢や日めくりカレンダーなどを活用して、昔懐かしい生活を思わせる雰囲気づくりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などトラブルが起きないよう関係性に配慮し、談話されたり入居者様同士の関係を大切にしている。一緒に家事をされたり、思いやりの言葉をかけて下さったりと、共に支えあえる生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族様が来訪して下さったり、入院で退居された方のお見舞いに行かせて頂いたり、その後についても話し合ったり出来る限りの支援をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様がどうしたいかを大切に、表情や動作から思いをくみ取り、ご家族様と相談したり職員で本人本位で検討している。	日頃の関わりの中で本人が発した言葉や動作・表情・生活歴などから把握に努め、一人ひとりの思いや希望に添える様に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活と大きな変化なく暮らせるよう、ご家族様、サービス機関等から細かい情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく観察し、出来ること出来ないことを見極め、職員間で情報を共有し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様だけでなく、ご本人様に関わる方からも意見をお聞きし話し合い、現状に即した介護計画を作成している。業務日誌には実施状況を記録し、目標達成を意識し取り組んでいる。	事業所独自の介護日誌を活用してカンファレンスを行い、概ね6ヶ月を目途に更新するが、状態の変化や新たなニーズが見つかった時は都度検討をして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録に日常の様子やプランに関すること、気づいたことなど細かく記録に残し、職員は送りや記録で情報を共有し、医療面は主治医に相談し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が希望するかかりつけ医の受診や買い物、外出など、ご家族様が困難な場合、事業所が代わって柔軟に支援をし、一緒に買い物や外食などへ出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は、事前に必ず連絡している。地域の行事では、町会の方の協力を得られ、餅づくりや盆踊りなど楽しく参加させてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人様が希望するかかりつけ医の受診支援の他、医療連携している主治医の往診、24時間体制で緊急時や夜間も診てもらっており、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	本人の希望に応じてかかりつけ医を決めており、通院・受診は職員が同行している。協力医療機関による月2回の往診が行われ、また、24時間の医療体制も築かれ、適切な医療が受けられる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師が隔週に訪問し、入居者様の状態や体調を報告、相談し、処置してもらったりアドバイス、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員も付き添い情報提供や今後の方針など病院関係者と相談している。お見舞い時は出来ることをさせて頂き、早期退院できるよう関係者と情報交換し、カンファレンスにも参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りに関する指針を示し同意を得ている。ホームで出来ることを説明し理解してもらい、主治医、ご家族様と都度十分に話し合い、主治医と連携を取りながら終末期支援に取り組んでいる。	利用開始時に本人や家族に看取りに関する指針を十分説明して同意を得ている。状態の変化に応じて、医師・家族・職員で都度話し合い方針を共有している。今年度は1名の看取りを経験し、反省会も行ってクリアすべき課題も見出し、より良いケアに繋げる取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の救命講習を受講し、急変時に適切に対応できるよう努め、AEDも設置した。定期的に訓練は行っていないが、職場内で事故等の対応について話し合ったり、緊急時マニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いで避難訓練を行い、昼夜の対応の仕方を身につけている。災害時には町会の方に救助に来てもらえる体制も整い、道南GH協会Bブロックでも、災害時に協力できる体制が出来ている。	消防指導の年2回昼・夜を想定した火災訓練を地域の方が参加して実施している。地域やエリア内同業者との災害時協力体制が築かれ、地震を想定した訓練も検討している。冬期の停電に備えてポータブルストーブを用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーに関することや、排泄の報告は暗号化し、トイレの前に暖簾をしたり工夫している。日頃からしてくれたことを感謝し、意識が向上する声かけを心がけている。	呼び名や声掛けは本人や家族と相談をして、本人が心地良く、誇りを損ねない様に配慮した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物、飲みたい物を確認したり、朝や入浴準備時に洋服を選んでもらったり、入居者様の希望、意見を大事に日常の中で自己決定してもらうよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からされていた新聞を読む、時代劇を見るなどの習慣を大切に、今は〇〇の時間と決めず、柔軟な姿勢で対応し、したいことをしてもらいご本人のペースで過ごすことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着てもらったり、長く愛用しているクリームや化粧品などの使用、パーマやカラーなどでおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物へ一緒に行き、好きな食材を選んでもらったり、季節感のある食事を提供楽しんで頂けるよう工夫している。調理、盛り付け、片付けなど出来ることを一緒にしてもらっている。	献立は利用者の希望を取り入れながら、旬の食材を使って季節感を出し、気分や行事に合わせて食器を使い分け、外食も取り入れて毎日の食事がマンネリ化しない様に配慮して、いつも楽しい食事になる様に心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録に残し、偏りや脱水に注意している。バランスの悪い時は、好きなパンを食べたり、刻み食、トロミをつけたりゼリー等を食べられる時に摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、歯間、舌ブラシなどの口腔ケア用品を使いケアし、必要に応じて歯科受診し治療、指導してもらっている。また、歯科衛生士が在籍している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、一人ひとりのトイレサインを見逃さず誘導し、汚染なくトイレで排泄できるよう支援している。パット類を使わなくなった方もいる。	トイレでの排泄を大切に考えて、立位がとれる利用者には声掛けをしたり、トイレ誘導して自立に向けた支援をしている。食事を工夫しながら自然排泄に導いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、起床時の乳製品や食事の工夫、毎日の体操で適度に体を動かし、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間が午後と限られているが、1番風呂がお好きな方には1番で入浴してもらったり、CDを聞きながら心地よく入浴してもらっている。足浴や汚染時は随時シャワー浴で清潔を保てるよう支援している。	お風呂は毎日お湯を入れて準備し、利用者の希望に添える様にしている。殆どの方は好きな音楽を聴きながら、週に複数回ゆったりと湯船につかりリラックスしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、臥床されたり、体調を見て声かけし休んでもらっている。季節に応じた寝具、加湿器や扇風機などで安眠できるよう支援し、眠れない時はお喋りしたりしゆったりできるよう関わり就寝時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個人記録に挟み、いつでも確認できるようにし、職員は薬の目的や副作用を理解し症状の観察に努めている。変更があった時も、職員全員で確認し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽鑑賞やカメラ、写真展見学など一人ひとりが楽しめるよう支援し、家事など得意なことを一緒に発揮し役割を持って頂いている。パンがお好きな方は、毎朝食べて楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や写真を撮りに出かけたり、写真展、買い物に行き、帰りに外食をしてくるなど個人に合わせた支援をしている。季節感を味わえる季節ごとの行事やドライブなど戸外へ出かけられるよう支援している。	外気浴を大切に考え、日常的に庭のウッドデッキを利用して日光浴をしたり、天気の良い日は目の前の公園を散歩し、買い物にも出かけている。また、花見や紅葉狩りなど季節毎のお出かけで、気分転換やストレス解消をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額は金庫で預かせてもらっているが、寂しい思いをしないよう、お財布や少ない額をご自分で持ってもらい、買い物時に使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお電話にお話しされ、贈り物が届いた時など、ご自分ではかけられないが職員がお礼のお電話をし、ご本人様とお話してもらえるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームで昔ながらの家の雰囲気を中心に、四季に応じた壁や居間のディスプレイ、入居者が撮った写真やぬり絵などを飾り季節感を味わえるように心がけている。空気の入替えや温度調整、適度な明るさ等に配慮している。	陽が燦々とする居間兼食堂は開放感があり、温度湿度も適切に管理され、清掃にも配慮され清潔が保たれている。所々に置かれたソファやベンチは、腰を下ろし、庭の景色を見ながらゆっくり寛ぐ場所になっている。事業所内はお雛様や利用者が撮った写真を飾り、季節感や遊び心を採り入れ、家庭的で温かい雰囲気があり、すっきりとした上品な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを設置し、気の合う方でお話し過ごされたり、語らいの場の空間作りの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されていた大切な物、使い慣れた家具や鏡などを使ってもらい、ご自分で撮った写真や作品を飾られ、居心地よく安心できる居室になるよう配慮している。	各居室には備付のクローゼットがあり、ベットや使い慣れたダンス、鏡台・思い出の品を持ち込み、利用者一人ひとりのペースでゆったりと暮らせる様に個性あふれる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりや歩行が安全に出来るよう廊下、トイレ、浴室等に手すりが設置されている。浴槽内に滑り止めマットを敷くなど安全の確保に努めている。		